

木細工地区は市でもっとも東端（市役所から北東に約25キロ）に位置する集落です。奥州市合併直後、ある市道が地域住民に予告もなく冬期間通行止めにされようとしたことがあります。今はきちんと除雪されていますが「周辺部の切り捨てでは」と一時は大騒ぎしました。

わたしたちにとって「合併によって周辺部に行政の目が届かなくなる」ことが一番の心配です。この集落でも合併前から人口減少が続いています。特に若い世代が勤務先に近い場所に家を建てて住み、こちらに大きな家があっても住んでいるのは高齢者ばかりです。

しかし、そのことばかり嘆いていても何も始まりません。年寄りだけでも楽しみながら暮らしていこうという発想から、2年前に有志4、5人で木細工むらおこし会を作りました。最初は何から手を付けてよいか分からず、経費のことなど心配ばかりが先に立ちました。幸い、地域づくりを支援するNPO団体

集落の活性化に 人的支援体制を



の指導で「木細工まつり」を開催することができました。予想外の人出に驚くとともに、住民に「やればできる」という積極性が出てきたと思っています。今では、住民から「次はあれをやってみよう」「こんなものを活用したら」というように、アイデアが出るようになっていきます。地域活性化の取り組みでは経

費調達が悩みの種ですが、それ以上に具体的な取り組み方法の指導をする人材が必要です。人口が少ない地域では、集落の中でそのような人材を確保することが難しいのです。市には補助制度だけではなく、活性化や団体育成の専門知識のある職員が出向き、直接助言を行う支援体制を整えてほしいと思います。

菊池 春男さん 【江刺区・70歳】

わたしはこう思う

周辺地域への対応は―― 今後の合併は――

菅原 せいさん 【前沢区・55歳】

これまでは旧前沢町民だったという気持ちが抜けず、自分の住所を書くときは「前沢町」から書き始めてしまっていました。しかし最近やっと「奥州市」から書くことができるようになり自分が奥州市民なんだということが自然になってきました。そのようなことから、奥州市のまちづくりは「これから」とい

う気持ちがあります。さて、市長のマニフェストを見ると、これから先、金ヶ崎町・平泉町との合併がうたわれており、新聞などでも市の次の合併に関する取り組みが報道されています。同じ胆江広域を構成する自治体・生活圏が一緒という金ヶ崎町・衣川区との経済的な交流や世界遺産、奥州藤原氏と

新たな合併には じっくり検討を

いう歴史的にもつながりがある平泉町。奥州市にとって両町はとても友好的なまちといえます。しかしともに「当面単独」の考えを明らかにしているようで反応はいまひとつのようです。わたし個人的には、平泉は「西磐井郡」ということで生活圏を別にしていたことから、金ヶ崎町に比べればなじみが薄いように思います。だからといって両町と合併を進めることに対しては反対ではありません。ただ、今でさえ奥州市内の前沢以外の自治体に「距離感」があるにもかかわらず、これから両町と合併しますますまちが大きくなっていくと、その分また距離を感じてしまうのではないかと心配しています。また、大きなまちになった場合のサービスの低下も懸念されます。合併新法の期限もあるのでしようから両町との合併を急ぎたい気持ちも分かりますが、合併でまちがより大きくなった場合、行政側でちゃんとフォローする体制は整えてほしいと思っています。